

令和5年度第2回北区飛鳥山博物館運営協議会 会議録

日時 令和6年3月26日（火）午後2時00分～3時57分

会場 北区飛鳥山博物館 2階講堂

【出席】

運営協議委員 一君塚仁彦会長、吉富友恭委員、有馬純雄委員、石原淳委員

阿久津光生委員、長濱恵美子委員、木下怜委員

教育委員会 一小野村教育振興部長

博物館 一坪井館長、松本管理運営係長、

鈴木事業係長・学芸員、久保埜主査・学芸員、

山口主査・学芸員、牛山主査・学芸員、

安武学芸員、高坂学芸員、佐々木学芸員、

田中学芸員、工藤学芸員、谷口学芸員

【欠席】

榎野治和委員

【事務局】 まず初めに北区教育委員会を代表して、小野村教育振興部長よりご挨拶申し上げます。部長、お願いいたします。

【部長】 皆さん、改めまして、こんにちは。教育委員会事務局で教育振興部長をしています、小野村と申します。

委員の皆様方には、日頃から飛鳥山博物館の運営に多大なるご尽力、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

飛鳥山の状況でございますけど、当初の天候等の予定であれば、桜が満開の時期ですが、まだまだ全く咲いてないような状況でございます。先週より寒い状況が続き、本日も冷たい雨の中、皆様方には足元の悪い中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

飛鳥山博物館もおかげさまで、来館者もコロナ前よりも随分戻ってきているような状況

でございます。本日も企画展をやっておりますけど、新たな春の企画展等も、これからはぎわっていくと思っております。

本日は今年度の事業の進捗状況について、ご報告させていただくとともに、来年の事業計画、それから今後の飛鳥山博物館の在り方について、皆様方にご議論をいただければと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただきまして、今後とも飛鳥山博物館の運営にご尽力、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 この運営協議会につきましては、区の方針に基づき、会議の内容は議事録として、区のホームページで公開をさせていただきたいと存じます。記録を作成いたします関係で録音を録らせていただきたいと思いますので、ご了承をお願いいたします。なお、議事録は事前に発言内容のご確認を委員の皆様させていただいた上で、公開いたします。

また、この会議は公開とさせていただきますので、傍聴を希望される方が同席される場合がございますので、併せてご了承いただきたいと思います。

本日は、委員の方9名のうち7名の方にご出席をいただいております。東京都北区飛鳥山博物館条例施行規則第12条第2項に定められました開催要件の半数以上のご出席を満たしておりますので報告いたします。

今後の協議会の進行につきましては、会長にお願いしたいと存じます。

【議長】 今日は、参集いただきまして、ありがとうございます。

それでは、令和5年度の第2回の北区飛鳥山運営協議会を始めたいと思っておりますので、どうぞ忌憚のないご意見、意見交換をよろしくお願い申し上げます。

本日の協議会の議事は3つございます。1つ目は、令和5年度の事業中間報告。2つ目は、令和6年度の事業計画。そして3つ目は、北区飛鳥山博物館の在り方の検討についてでございます。

それでは、まず令和5年度の事業中間報告について事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】 事業係長の鈴木でございます。着座にて、失礼いたします。

資料の令和5年度事業報告（中間報告）をご覧になっていただければと思います。

まず、1ページ目、館の利用状況でございます。

開館日数、228日で、入館者数が7万5,157名。また、常設展示の観覧者数が1

万4, 273名となっております。

続きまして、2ページ目、展示関係でございます。

特別展示室で行われました展示でございますが、企画展2回、特別展覧会1回、わくわく展示1回、スポット展示1回の合計5回、191日間（166営業日）で3万5,532名の観覧者がございました。

企画展、展示関係の内容でございますが、まず令和4年度春期企画展「I♡スーパーマーケットのチラシにみる昭和」が、令和5年3月21日から5月14日、総日数55日間（48営業日）で開催いたしました。こちらの企画展に関しましては、かつて北区の王子にございました「ほりぶん」というスーパーマーケット、チラシや、資料を通して、当時の人々の暮らしの移り変わりなどを紹介した展示でございます。

続きまして、3ページ目、秋期企画展「北区貝塚物語ーとある少年が見た、驚きの縄文ワールドー」でございます。こちらは、10月24日から12月10日まで、48日間（42営業日）で開催いたしました。

こちらは、現代からタイムスリップした少年「タロウ」の視点を基に、中里貝塚や、近年発見されました栄町貝塚ですとか、北区の貝塚にまつわることをテーマにしまして、縄文人の暮らしについて紹介いたしましたものでございます。

続きまして、特別展覧会でございます。

第22回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展を開催いたしました。こちらは、人間国宝奥山峰石先生と、それから北区とつながりのある18名の作家、合計19名の作品を展示いたしました。

続きまして、4ページ目、夏休みわくわくミュージアム・展示でございます。

こちらのイベントは、夏休みわくわくミュージアムの中の展示部門でございます。今回は、みんなの学校というテーマで行いました。2023年が北区に初めて学校ができてから150年という、その節目を迎え、学校をテーマにして展示を行ったものでございます。

続きまして5ページ目、スポット展示、収蔵資料展示、ASUKAYAMAセレクション25を開催いたしました。例年は飛鳥山セレクション5という、5点に絞って資料を展示するものですが、開館25周年ということのを記念しまして、学芸員全員がそれぞれ資料をセレクトして、25点の展示を行いました。

続きまして、ミニ展示でございます。おかげさまで25周年、北区飛鳥山博物館の歩んできた道、歩む道を開催いたしました。こちらは、ホワイエ、閲覧コーナーという場所を使

いまして、5月27日から12月27日まで、長期に行いました。タイトルにございますように、開館25周年を記念しまして、館のこれまでの取組ですとか、これからのことをパネルで紹介したものでございます。

続きまして6ページ目、夏休みわくわくミュージアム、こちらを1回38日間（33営業日）で行いました。先ほど申し上げました展示のほか、常設展示室内でブラックコン吉を探せという小さなお子様でも参加できるようなイベントや、講座講演会の中での体験学習室を中心に講座の開催や、ホワイエにて、本&ぬり絵コーナー、地域調べのススメコーナーなどを設置いたしました。こちらは夏休み期間中、7月21日から8月27日の間に開催しております。

続きまして、講座・講演会でございます。

一般向け講座・講演会、23講座、展示関連講座、8講座、夏休みわくわく講座、14講座の合計45講座を開催いたしまして、75回、2,238名のご参加がございました。この講座数についてでございますが、4年度が52講座で45講座と少なくなっておりますが、実は、今年度連続講座を開催しており、その関係上、講座数が少ないのですが、実施回数はほぼ変わらないという理由がございます。この45講座の内訳でございますが、継続講座が32、新規講座が13を数えております。

連続講座につきましては、9ページ目6番、開館25周年記念、北区再発見！学芸員リレー講座（前期）と記しております。当館が開館25年を迎えましたので、そこで学芸員全員がリレー方式で、古い時代から新しい時代までを網羅して行う講座でございます。その前期分5回分を5月から9月にかけて行ったものでございます。後期に関しましては、その後にもまた改めて後期講座として行っております。

続きまして11ページ目12番、関東大震災記録を読むという講座を開催いたしました。2023年が、関東大震災の発生から100年目という区切りがございましたので、この関東大震災に関する講座を開催いたしました。

次ページでございます。

2023年は節目になる100年、150年という年に当たっておりまして、公園指定につきましては、飛鳥山が公園指定になってから150年がたつということに併せまして、「公園指定150年記念飛鳥山の歴史」という講座を開催いたしました。

また、開館25周年記念北区再発見！学芸員リレー講座（後期）を開催しております。今回のご報告は12月までですので、10月、11月、12月の分として参加者数を明示

しておりますけれども、第9弾、第10弾として、1月、2月に既に開催して5回連続、前期と合わせると10回という形で開催しております。

続きまして、23ページ目をお開きください。

X、旧Twitter、それからInstagram、Facebookなどを通じまして館の事業、飛鳥山の様子や、四季折々の様子を投稿しております。

6番、出張事業でございます。

こちらは、一般講義4団体、7回を行っております。

続きまして、24ページ目7番、団体見学です。

こちらは、一般見学22団体、小中学校見学8校、高等学校・専門学校・大学・大学院見学など6校、保育園・幼稚園1園の37団体、1,408名の観覧者ございました。

一般見学としましては、一般団体が17団体、それからデイサービス3団体、その他2団体とございますが、例年ですとデイサービスの利用が非常に多かった印象がありますが、コロナ明けで他団体の皆様も団体見学を復活させたような、印象を持ちまして、17団体と増えているような感じでございます。

続きまして、27ページ目8番、学校対応・支援事業でございます。小中学校支援事業としまして、出張事業を行っております。

28ページ目、中学校向けの職場体験を令和5年度も実施いたしました。4校、8名の参加がございました。

続きまして、高等学校・大学支援事業でございます。インターンシップにつきましては、令和5年度は応募校がなく、実施はいたしておりません。

続きまして、職場体験でございます。東京都立王子特別支援学校から4名の方が職場体験を行っております。

29ページ目、教員支援事業でございますが、東京都中堅教諭等資質向上研修として、2名の先生をお迎えして研修を行っております。

続きまして9番、学芸員実習でございます。令和5年度は3大学4名の受入れを行いました。

続きまして、30ページ目、館の見学実習でございます。実習校数が4校ございまして、館のバックヤードや、展示を見学していただきました。

博物館実習の協力につきましては、東京学芸大学様のほうから、当館を利用して大学ではできない実践を学ぶ場として依頼がございまして、これに協力するという形で実習を行

っております。実習内容としましては、見学、ミニパネルの制作・プレゼンや、資料の梱包などを行っております。

資料の貸出しにつきましては、令和5年度12月まで、3件44点の資料の貸出しがございました。

続きまして32ページ目、資料の利用でございますが45件、204点の利用がございました。

39ページ目、資料の収集でございます。こちらは受入件数3件、使用件数1,434点でございます。件数では、令和4年度とさほど変わらないのですが、点数が大幅に増えております。こちらは、榎本徳次郎商店資料、滝野川村榎本家文書附民俗資料、このような一括資料の寄贈という形がございましたので、資料点数が増えている状況でございます。

続きまして40ページ目、購入でございます。

24件、27点の購入をさせていただきました。令和4年度は5件、5点でございましたが、購入資料に関しましては、出物がある年と、ない年とかがございますので、令和5年度が非常に北区に関連する資料が市場に出たというところで、この件数、点数を購入させていただきました。

41ページ目資料の保全ですが、まずは環境調査を5月11日から6月5日、月曜日まで行っております。また、燻蒸ですが、7月1日から7月10日の10日間、実際には臨時休館が7月4日から7月7日の6日休館という形で行っております。

雑駁ですが、以上でご報告とさせていただきます。

【議長】 ありがとうございます。それでは、ただいま鈴木係長からご報告がございました。令和5年度の事業報告について、意見交換をしたいと思います。委員の先生方からご質問、ご意見等がございましたら、ご発言いただければというふうに思いますが、いかがでしょうか。挙手をお願いしたいと思います。

【委員A】 1ページの1番2の入館者数の対前年度比較でございますが、3.2%増というふうに計算されますが、これについては微増と見るのか、変動と見るのか、いかがでしょうか。

【事務局】 入館者数ですが、観覧者数ともに3,000人ほど増えているということで

すが、何とも言えないというか、コロナ明けで大分右肩上がりと言いますか、入館者数が増えているということですが、これが急にぐんと増えて、5,000人、1万人が増えているということではないので、微増と捉えるべきなのかなと思ってはいますが、またこれは1月、2月、3月になりますと、また状況によって変わりますので、全体の入館者の動きは、また3月までの数字を見て、判断をさせていただければなと思っております。

【議長】 よろしいでしょうか。

当該のデータを見ていると、堅調に回復しているという感じがいたします。ですので、ほかの館と比べても、そんなにずれた数字ではない感じがいたします。

ほかに、いかがでしょうか。

長濱委員、お願いいたします。

【委員B】 相変わらずすばらしい講座が多いです。25周年の記念のリレー講座ですが、すごく人気があって本当にいいなと思ったのですね。これは、来年度は多分継続されないのかなと思ったのですけれども、何か継続したらいいのではないかなと。学芸員の方が多分大変だと思うのですけれども、可能であれば少しでもいいので、継続できたらいいのではないかと思いました。

また、「しゃぼんであそぼう！」という幼児向けの講座ですが、定員20名のところに、申込みは約40名程度、非常に多い数ですが、参加をされているのがやはり体調とかもあったのかもしれないですが、8名程度になっているようです。これは、やはり当日の体調とか、急に参加できなくなってしまったとか、そういうことがあるのでしょうか。少しもったいないなと思いました。

【事務局】 講座を担当しました、学芸員でございます。

当日、この夏は、お子さん方の間でインフルエンザがはやっていた時期であったということ、また、当日が大雨になり、講座開始の時間からは少し晴れましたが、家を出発するときには大雨という状況で、前日までは、キャンセルが出てくる分は常に繰上げ抽選で当選を出していたのですが、当日になって急にお休みの方が出て、この参加者というところでございました。

【委員B】 承知いたしました。ありがとうございます。

以上でございます。

【議長】 ありがとうございます。それでは、ほかの委員の方々、いかがでしょうか。

【委員C】 展示部分の説明で、いろいろ名称があり、企画展、特別展覧会、わくわく展示、スポット展示、ミニ展示と、それぞれ、多分特色がある名前がついていると思うのですが、これはどのような意図で、このような名前がついていて、使い分けているのかということをお教えいただければ幸いです。

【議長】 お願いいたします。

【事務局】 企画展、特別展覧会、わくわく展示、スポット展示に共通するのが、特別展示室で行われる展示でございます。その中で規模や、内容によって使い分けをさせていただいております。企画展は春と秋に2回行う企画、規模の大きめな展示を企画展と呼んでおります。

特別展覧会に関しまして、これは人間国宝奥山先生の工芸作家展に関して、特別感を出すということで、このような名称を使わせていただいております。

わくわく展示というのは、夏休みにわくわくミュージアムで行う展示に使っております。スポット展示は、企画展示の中で比較的規模が小さく、予算的なものも少し減じ、まさにピンポイントでスポットを当てるような、そういう展示ということでスポット展示というふうに行っております。

さらにミニ展示とございますが、こちらは特別展示室に限らず、ホワイエや、3階の閲覧コーナーですとか、また常設展示室の中にケース1個ほどの、あるいはケースを使わないというような形で行うような展示に関して、ミニ展示という名称を使わせていただいております。

【委員C】 ありがとうございます。

【議長】 これは統一したルールがなく、ローカルでのルールとなります。本当に京王線

の電車の種類ぐらい多くて・・・見ていくと、それぞれがそれぞれの理由で使い分けているというような状況でございます。

【委員D】 ご説明、ありがとうございました。

1点教えていただきたいのが、6ページの講座講演会のところで、先ほど講座数が、数字上は前年度よりも最近少なくなったというお話がありましたけれども、参加者数が大幅に増えているのかなというふうに拝見しまして、この背景には、こういったものがあるとお考えでしょうか。

【事務局】 全体に関して言いますと、コロナ禍にあって、参加者の応募数を若干低めに設定していた50名や、45名で設定していた人数を、60名に設定したということが、全体の中で言えるところだと思います。

あともう一つが、先ほど長濱委員からもございました、連続講座ですが、こちらが、かなり人気が高く、しかも連続ですので、欠席率が非常に低いということで、ばらつきがなく、平均して多くの方に参加していただいたのかなというような印象を持っております。

【議長】 ありがとうございます。

ほかによろしいでしょうか。

【委員E】 ご説明、ありがとうございました。

2つありまして、1つは23ページの広報ですけれども、これは、フォロワー数が伸びているということがとてもよく分かりました。それで、例えばこれに反応して「いいね」を押した人とか、リーチ数が高かったとか、そういうどんなコンテンツを公開して、どれだけ反応があったかというような分析もできると思うのですが、もしされていないようでしたら、その辺りが今後色々な企画の参考になると思われました。

あと1つは資料の貸出しです。資料の利用、32ページから拝見しますと、画像データの提供というのが非常に多い、写真などの貸出しが多いということが分かりますが、どのように画像が活用されたのか、例えば記事になったとか、そのような記録は収集していらっしゃるのでしょうか。その2点をお願いします。

【事務局】 広報、SNSを主に担当しております。

Xなどのインプレッション数や、当館のトップページに飛んでいただいてホームページまで至った人数などは、以前のTwitterのときには、直ちに確認が可能でしたが、X変更時、データ分析が有料になってしまったため、分析を細かく見ることができていません。基本的に、インプレッション数が5を超える事を目指すなど、目標は持って取り組んできました。

【事務局】 2点目のご質問でございますが、画像データを提供しまして、一番多いものが、冊子や、書籍に掲載する画像データの提供です。そのような提供先の場合は、必ず掲載誌を一部寄贈していただくことを条件にお貸出ししています。届きました掲載誌、新聞によりチェックを行っております。

テレビ放映に関しましては、館内で決まりがあるわけではないのですが、時間がある人が見て、昨日見たよというような報告がある程度です。

【議長】 ありがとうございます。

委員F、何かございましたら。よろしく願いいたします。

【委員F】 今年も堀船中学校の1年生の子が大変お世話になりまして、ありがとうございました。渋沢栄一関係の展示を見て、最後に飛鳥山博物館を観覧するという事で、いつも丁寧に対応していただきありがとうございます。

またこの後、今後の計画につきまして、いろいろお話を聞きたいことありますのでよろしく願いいたします。

【議長】 ありがとうございます。

私のほうからも一点だけよろしいですか。27ページの出張事業ですが、飛鳥山は一生懸命、小中学校あるいは高校等で連携事業を効率的にやられて、成果が蓄積されてきていると思っています。おそらく23区立の博物館の中では、この面においてもトップクラスだと思っているのですが、今回は数が少なかったというか。1件だけということですが、これはむしろ使い勝手が悪いというか、どういう事情かということなのか、何か次につながるヒントがあれば、お感じになっている部分があれば、お答えいただければと思

うのですが、いかがでしょうか。

【事務局】 出張授業に関しましては、ご希望のある学校様に対して行うということで、多少我々からのアプローチといいますか、宣伝のようなものが足りなかったのかなという気はいたします。団体見学のような形で、北区の教員の社会科部会の先生方が、まとまって当館を訪れるということがありますが、そのような時には先生方に、見学だけではなくて、我々が伺うことも可能ですよというアナウンスをさせていただくこともあります。そうすると、そんなこともやってくれるの、じゃあ、頼もうかなということで、新年度になって依頼されたということがあります。何かそういう機会が、令和5年度の中では不足していたといいますか、なかったことも影響して、依頼校が少なくなったのかなと思います。

【議長】 分かりました。

何か委員C、ヒントになるようなことがありますでしょうか。

【委員C】 社会科部会のほうでは以前、私も来たことがあるのですが、毎年というわけにはいかず、今年は来られなかったのですが、以前にもここで話しましたが、プッシュ型で、やはり学校側が来館したときだけではなくて、学校にいろいろなところから、こういう紹介が来ますけど、区内から来たものというのは、やはり注目しますので、プッシュ型でどんどん押すのもいいのではないかと、情報を学校にいただければ、少しは目に止まる場所もあるのではないかと思うので、遠慮なさらず、学校のほうに情報提供していただくのも一つかと思います。

【議長】 ありがとうございます。遠慮なさらず、どんどん情報発信をしていただければと思います。特に、自立的な学びとか、個別最適な学びだとかいうことがありまして、博物館はたくさん資源を持っていますので、ぜひご活用いただければと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

それでは、本議決事項につきまして、承認をいただきたいと思いますので、慣例に従いまして、拍手でご承認いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

(拍手)

【議長】 ありがとうございます。

それでは2点目に進みます。2点目議事、令和6年度事業計画について、こちらも、鈴木事業係長のほうからご説明がございます。よろしくお願いいたします。

【事務局】 令和6年度北区飛鳥山博物館事業計画のご説明をさせていただきたいと思っております。

1 ページ目、令和6年度の展示・イベント・講座・講演会事業計画のポイントでございます。

まず、展示事業に関しましては、ミニ展示の開催を考えております。

先ほどご説明させていただきましたとおり、ミニ展示というのは、特別展示室以外の場所で展開する小規模な展示でございます。まさに今、会場になっております講堂を会場としまして、ミニ展示を開催する予定でございます。

期間も8日間(7営業日)に限定して、会期中に関連講座を開催する展示と講座をセットにした形で行う予定でございます。

2点目が、旧岩淵水門100周年記念展示の開催でございます。令和6年は岩淵水門、赤水門で親しまれています旧岩淵水門が開設100周年となることから、これを記念したスポット提示、こちらは規模が小さめな特別展示室で行う展示として、行う予定でございます。

続きまして、講座・催物事業でございますが、夏休み以外での子ども向け講座の実施を一つのポイントとして挙げました。これまで子どもや親子向けの講座は、夏休みに集中して行っていましたが、今年度は試験的に、それ以外の時期においても講座を開催し、子どもや親子の博物館に対する関心度を図ることを目的として、このような形で予定をしております。

続きまして、展示・イベント・講座・講演会事業数について説明いたします。

展示に関しましては、企画展3回、特別展覧会1回、学校対応展示会1回、スポット展示2回、ミニ展示1回、常展活用展示、こちらは常設展示室において行う展示でございます。それが1回で合計9回と、令和5年度と同等の回数でございます。

2番目にイベントでございますが、夏休みわくわくミュージアムを1回開催する予定でございます。

講座・催し物に関しましては、一般向け講座43講座、展示関連講座8講座、わくわく

講座13講座の64講座、92回を予定しております。

この64講座のうち、継続講座が40、新規が24の割当てになっております。

続きまして、2ページ目をご覧ください。

まず、展示事業でございます。企画展3回、そのうち1回が、1番、令和5年度春期企画展「ファッションプレートが映し出す近代—技術と美術の交差点—」。こちらは、年度をまたがって開催しておりますので、実際の会期が令和5年度の3月20日から、既に開催しておりますが、終わりが令和6年度の5月12日という形になっております。

2番目としましては秋期企画展、仮称ですが「食の考古学」を予定しております。

また、令和6年度の春期企画展として、仮称「北区の埴輪」を年度またいで、令和7年3月18日から5月12日にかけて開催する予定でございます。

続きまして、特別展覧会でございますが、第23回を数えます「人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」を開催する予定でございます。

3ページ目、学校対応事業展示「来て、見て、知って！昔の暮らし展」、こちらを冬の時期、1月5日から2月28日にかけて開催する予定でございます。

続きまして、スポット展示でございます。こちらは2回予定しております。

一つ目が、収蔵資料展示「学芸戦隊キュレーター—思いを込めて資料（コレ）を推します！—」、こちらを5月25日から6月13日の約1か月間の開催を予定しております。

2番目が先ほど申し上げました「旧岩淵水門100周年記念展示」、こちらを夏の時期に行う予定でございます。

続きまして4ページ目、ミニ展示でございます。

こちらは先ほど申し上げました、講堂を会場にしまして、講座と一体化して行うものがございます。「旅行パンフレットから知る昭和の行楽」、こちらを3月の初旬に開催する予定でございます。

常展活用展示は、1回を予定しております。こちらは回想のためのテーマ展示、「オボエテマスカ？—懐かしの暮らしと道具—」を、常設展示室、水塚の母屋の場所を利用して、展開する展示となります。

2番、イベントでございます。これも例年どおり「夏休みわくわくミュージアム☆2024」として、夏休み期間中に開催する予定でございます。

以降、講座・講演会でございますが、先ほどポイントに挙げさせていただきました、子ども向けの展示、こちらの夏休み期間以外での開催について、ご紹介させていただきたい

と思います。

5 ページ目の 2 番、ちびっこ体験講座「こいのぼりをつくろう！」ということで、5 月 3 日、5 月 5 日の直前に開催しまして、自分たちで、こいのぼりを作ってみる講座になっております。こちらは、対象をご覧になっていただくとお分かりのとおり、3 歳児から小学生と保護者を 2 から 5 名、1 組という形で行う家族で参加する講座でございます。

続きまして、6 ページ目 8 番、「北区ジュニア考古学クラブ 2024」でございます。こちらは、新規講座ではなくて、既に行われている講座で、通年 6 月から冬の 2 月まで、子どもたちと一緒にいろいろな見学をしたり、体験をしたりする講座でございます。

続きまして、10 ページ目 25 番、ちびっこ体験講座「あすかやまのどんぐりでおもちやをつくろう！」でございます。こちらも新規講座ではなく継続講座で行っております。

続きまして、12 ページ目 30 番、ちびっこ体験講座「あすかやまのおちばで、ハンカチをそめよう！」ということで、これは新規講座として、飛鳥山の落ち葉を集めて草木染めをするという講座になっております。

続きまして 31 番、博物館であそぼう「江戸時代のおもちゃ、ずぼんぼを作って遊ぼう！」ですが、この江戸時代のおもちゃ、ずぼんぼを作る講座というものは、例年ですと夏休みわくわくミュージアムの講座の中で行っていたものです。こちらは、獅子舞のずぼんぼを、新年を迎える前の年末に作成するというので、このような講座を体験しながら、新年を迎えてもらおうというような試みでございます。

それから 32 番、「博物館で遊ぼう、年末編」ということで、こちらも百人一首や、すごろく、福笑い、たこ揚げなど、正月遊びを実際に体験し、楽しむという講座になっております。

続きまして 14 ページ目 40 番、「考古学をはじめようジュニア編」でございます。こちらは、大人向け、一般向けの講座の考古学講座、考古学を始めようということをして令和 5 年度に行い、また令和 6 年度も春に行う予定ですが、その講座のジュニア版ということで、小学校 5 年生から中学生と保護者を対象に行ってみる予定でございます。

ちなみに、「考古学をはじめよう」というタイトルがございますが、実際に発掘調査をするとか、そういうことではなく、考古学の土器や石器から、どんなことが分かるのかということや、実際に手に触れて、いろいろな考古学の楽しみを味わってもらおう講座になっております。講座に関しましては以上でございます。

次に、21 ページ目、広報でございます、SNS につきましては、各学芸員が企画展の

情報や、講座の開催報告、学芸員のお仕事というタイトルでいろんなことをテーマに発信していきたいと思っております。

4番、学校対応・支援事業でございますが、「来て、見て、知って！昔の暮らし」を開催いたします。例年どおり区内の小学校中学年、主に3年生の生徒さんが学校単位で博物館にお越しいただきまして、展示を調べることに、昔の道具を調べることに、昔の道具を体験することをセットにした事業でございます。

続きまして2番目、体験授業、3番目出張授業でございます。こちらは依頼に応じて実施をするという形になっております。

続きまして22ページ目、職場訪問、職場体験でございます。こちらも通年依頼に応じて、実施する予定でございます。

5番、学芸員実習。1番、博物館実習及び見学実習を行う予定でございます。博物館実習に関しましては、もう既に2月に募集をかけまして、4名の実習候補者が決まっております。

続きまして、23ページ目、出張事業でございます。

1番目が回想法プログラム「昔の道具の思い出がたり」ということで、これもご依頼がございましたら、博物館資料を携えて高齢者介護施設などを訪問しまして、そこで展開する事業でございます。

また、2番の一般講義に関しましては、こちらのほうも依頼に応じて、当館から出まして、いろんなところで講義を行うものでございます。

7番、団体見学・一般見学・学校等見学を例年どおり受け入れる形になっております。

24ページ目、資料の貸出・利用ですが、こちらの1番、2番、資料の貸出・利用も例年どおり依頼に応じて、実施する予定でございます。

9番資料の収集は、資料の寄贈、資料の購入も例年どおり、応じていく予定でございます。

10番、資料の保全でございます。こちらも環境調査を5月から6月に行い、その後具体的に薫蒸、収蔵庫の特別収蔵庫、一般収蔵庫の薫蒸を6月29日から7月7日にかけて行う予定でございます。

令和6年度の事業計画に関しましては、以上でございます。

【議長】 ご説明、ありがとうございました。

令和6年度の事業計画、色刷りの資料もご確認ください、この館の事業は非常に多様性に富んでいます。これだけの事業数、質、多様性という意味では、トップクラスであることは間違いございませんが、これだけの事業を維持するのはなかなか大変なことだろうなと思い、いつも働き方改革が頭をよぎるのですが。先生方からのご意見が、これからこの館を育てていくことになると思いますので、忌憚のないご意見をお願いいたします。いかがでしょうか、ご意見がある方。

では先生、よろしくをお願いいたします。

【委員F】 このファッションプレート。これは、素晴らしいですね。本当に、今この写真を見せてもらったのですが、また先ほどからお話がありましたが、これだけの企画展示が全部そろっているというのは、学芸員さんが本当に優秀だなというようなことを改めて感じております。特に、このファッションプレートですね。要するに和装から洋装に変わるなんて言うのは、いろんな目で女学雑誌とかでも取り上げられて、そして洋装が鹿鳴館時代から入ってくるとか、そのような面では、中学生でも見たりするのも非常に便利ですし、また、あまり歴史に興味がない子でも、こういう服飾関係とか、こういったものに非常に好きな子もおりますね。そのような子を見て、またそれ以外の服飾を学んでいる、ファッションを勉強している方も歴史的な流れや、このようなものから古いものはこのようになっているのだなということで、新しい発想が生まれるのではないかなと思い、すごい企画だと思っています。本当に企画が素晴らしいところもすてきだなと思っています。

このような展示もあつたらいいなと思うのは、7月に新紙幣になりますよね。渋沢栄一さんもそうですし、北里柴三郎さんもそうですけど、順天が今度北里研究所附属の学校になるということもあります。渋沢栄一は、令和2年から学校である程度出していまして、去年は北里柴三郎さん関連でした。また、今津田梅子を6月までにやって、7月に新紙幣へということですが、この方々は、ただ偉業を果たしただけではなくて、渋沢栄一さんは北区に最高にゆかりがある。また柴里柴三郎さんは、今の感染症、コロナもそうですけども、これは人類の歴史が始まってからの大きな課題ですね。挑戦の中で生まれてきたのが、アドレナリンなどの発見があった。また、今もテルモなどでECMOを作って、コロナのことに大きく貢献したとか、いろいろな面で企業をしていくということが、今の中学生も、これからの子どもたちにも大事なことはないかと思っています。

また、津田梅子についても、岩倉使節団として英語を学んで10年、英語を学んできて

英語の学校を作った、津田塾大学をつくったというだけではなくて、その日本の学校に英語を、要するに女性が高度教育を受けられるような形の資金集めをアメリカで取り組んだという、これらの流れは、単なる絵で見るとかではなく、アントプレナーシップ、起業家とは何かということを抑えさせたいというのは、私個人的には思っており、今学校ではそのことを進めようとしているのですが、そのような着眼点で見るために、何かコーナーがあると中学生にもいいのではないかなと思っております。ただ、これにつきましては渋沢資料館や、また北里研究所からの資料集めとか、また津田塾大学や津田梅子資料室からの資料の提供とか、そのような面で予算がかかるかもしれないですが、そのようなものもあるといいと思います。

【議長】 貴重なご意見、ありがとうございました。

いかがでしょうか。もし何かあれば。

【事務局】

新紙幣に関しましては、お隣に渋沢資料館さんがあるので、うちで大々的に講演するということは、なかなか少しはばかれるかなということがございますので。とは言いましても、渋沢資料館さん、紙の博物館さんとは、3館共同でいろいろな事業をやっております。ですので、そのような中で展示につきましては、かなわないかもしれませんが、講座や、3館合同講座のようなことも話合いの中で行なうことも可能ですので、新紙幣などをテーマにできればと思っております。

【議長】 ありがとうございました。

ほかにありますか。

それでは有馬委員にお願いしたいです。

【委員A】 事業計画について、展示の企画展を3回構成されて、考古学関連と食の考古学、北区の埴輪という2点、傾向としては飛鳥山博物館の特徴を出される内容になっていると思います。

先ほど、令和5年度事業の報告を見ていたら、突出して講座の参加者数の、応募者数の多いのが目に入ってきました。18ページにある北区遺跡学講座の中里貝塚と栄町貝塚の

申込みが141名で定員が25名、参加者数21名でした。これは非常に倍率が高い結果です。その前の17ページの北区の貝塚から読み解く縄文社会の云々という、これも申込みが結構多いです。ちなみにベースとしてはこの飛鳥山博物館の講座を聞きに来られる方々は、この辺りに一つ大きい需要があると思っています。それを反映する形で、事業計画、今年度立てていただきました。先ほど申し上げたように、食の考古学と北区の埴輪は受がいいのではないかと思います。

【議長】 ありがとうございます。

何かご意見はありますか。

【事務局】 貴重なご意見をありがとうございます。

やはり北区の歴史をざっと見ると遺跡が多い。特に貝塚が非常に注目されることと、江戸の飛鳥山やその周辺の名称が1つの北区の売りになっていると思います。ただ、それだけをずっとやっていくことは、少しどうかとも思います。そのため、その部分の話はうまく強弱をつけて、バランスを取りながら、様々な時代に関しても、展示を企画してまいりたいと思います。

【委員A】 情報地域で語れるのは北区しかなく、貝塚を語れるのは北区しかなく、立派な規模で内容の博物館の展示に反映されていて、そこに対する企画展示がいいと思っています。

【議長】 今年の中里貝塚の展示会も非常に面白い内容でした。ありがとうございます。ほかに何かございますか。よろしく願いいたします。次は木下怜委員からお願いいたします。

【委員D】 ご説明をありがとうございました。

4ページ目に載っているミニ展示に関してです。講堂を半分切って開催するというお話でした。こちらの冒頭でも開催期間は1週間に限定するというお話がありましたけれども、企画展のない期間の集客を促すことが狙いと書いてあります。そうするともう少し期間を長くしてもいいと思いました。

これは旅行パンフレットから知る昭和の行楽ということで、昨年度開催されていた堀文さんのスーパーチャシの企画展に、非常に感銘を受けて、本当にこの地域の博物館でしかできない企画だなと思って感動しました。しかし、それと通ずるところがあり、1週間はもったいないと思い、1週間だけ開催するという何か理由や背景等があればお聞きしたいです。

【議長】 お願いします。

【事務局】 担当の学芸員でございます。

当初、この展示は講座のお客様に向けて実物も見ていただきながら、講座を聞いていただくという趣旨から始まり、列品もした為、ほかの方にも見ていただきたいと思ったので、期間を短くして1週間とさせていただきました。前後のスケジュールの可能な限り、できればご意見を頂いて、長く開催したいと思っております。

ありがとうございます。

【委員D】 ありがとうございます。

【議長】 貴重な意見をありがとうございました。

そのほかにもございますか。それでは長濱委員にお願いいたします。

【委員B】 私も食の考古学と北区の埴輪は、非常に楽しみでございます。すてきなネーミングがあれば、また集客も増えると考えています。

また考古学でも、皆さんの企画力は非常に素晴らしいので、土器を並べるだけの展示ではなくて、リアルな土器を使って分かりやすい展示をしていただけると、非常にうれしいなと思います。

先ほど、貝塚や縄文などは非常に人気があるということでしたが、そこで利益を得るということではないと考えています。せっかく公の機関なので、人が集まらなくてもいい講座で、30代の男性向けの難しい講座や何となく抜けている部分の変わったものを講座にして再来年以降に開催したら面白いと考えました。あくまで希望でございます。よろしくお願いいたします。

【議長】 思いがけない意見が来ました。どなたかいかがでしょうか。

【事務局】 ご意見をありがとうございます。

実は我々も博物館のヘビーユーザーである60代以上の方々や小さなお子さん、そしてその間の世代の皆さんに、何とか博物館に来ていただきたいと思い、今年に夏休み以外親子で、本当に博物館のほうに足を運んでくれるかどうかと課題がありました。

30代や40代をターゲットに据えるということは、さらにステップアップした形で、考えていきたいと思っています。これが我々の大きな課題でもありますので、いろいろ考えながら、事業に向け調べていきたいと思っています。

【委員E】 3ページのスポット展示の2の、旧岩淵水門の中で、人々の暮らしを洪水からかつて守ってきたという意味で、北区の地理的な特徴を知ることにもつながり、水に関する防災教育の点でも、この展示はつながっていくと思うので、ぜひそのような視点も盛り込んでいただきたいと思いました。

また荒川下流河川事務所は、荒川下流域でなく、下流河川事務所だと思います。

【議長】 ありがとうございます。

この論点は重要なポイントだと思いますが、いかがですか。

【事務局】 今、ご指摘があったことで、岩淵水門の100周年に関してですが、水害とその対策で、特に北区で何が起こっていたかも含めて、古文書や高木助一郎日記という北区指定の古文書がありますが、洪水の記述等もあり、それも含め地域の動きやそれを含めた水路工事もある形で、案の段階ですが、現在北区の景観100選の中の1位、2位、3位に入る赤水門の荒川の景観が北区の人々に親しまれており、そのような部分も触れる形で、展示の構成をしていきたいと考えております。

それから、今委員からご指摘いただきましたが、荒川下流河川事務所様と一緒に協力を得ながら取り組んでいきたいと思っています。

【議長】 よろしいですか。ありがとうございます。

ほかに意見等がありますか。

それでは委員Cにお願いいたします。

【委員C】

お客さんは楽しそうに感じました。このことは、とてもよいと思って見えています。

子ども向けの夏休み以外をチャレンジングでいいと思います。特に季節もので、それを充てることは、やはり日本は四季があり、お正月もある為、子どもの教育上にとってもよいと思うので、ぜひ進めていただきたいです。

ただ、私は小学校の校長ですが、土曜日の授業がある日や運動会、展覧会、音楽会、学芸会等もやはり土日は必ず子どもは休みでないので、例えば、小学校や中学校で休みがすぐ集中している日もあります。そういう日に当たると、人数も少なくなることもあると思い、人数の参加が少なくても、駄目ということではなくて、少し継続して見ていただけるのもよいと思います。

夏休みわくわくミュージアムが、狙いとして自由研究の宿題に最高の売りなので、ぜひ全面に出して集客をしていただきたいです。親にとって自由研究は大変なので参加できたら、とても喜ぶと思われます。したがって細かいことですが、例えば、なにかいろいろ作る時に、例えば勾玉や藍染めなどを作る時に、次の行程を言葉で説明して行っていくます。例えば、資料として工程が紙1枚用意されており、そこに全部書いてあると、帰った後に、それを自由研究にする時に、その作品だけ持って行くと、小学校は嫌がります。そのため、この作品は工程を言葉で終わらせず、作り方の説明を書くことやもちろん写真を撮るのも有効に活用できます。写真に関して、立派な自由研究ですので、持ち帰った後に自由研究でまとめる時に使える資料があると、かなり好評になるのではないかと思います。そのため、細かいことになりますが、かなり集客としていい作戦になりますので、自由研究の宿題に役立つと皆さんにアピールをしてください。

【議長】 大変貴重なご意見をありがとうございます。

この意見に関してなにかありますか。

【事務局】 貴重なご意見をありがとうございます。

曜日に関しては、学校の年間のスケジュールなどを勘案して、少し修正をかけるなど試したいと思います。

それから、夏休みわくわくミュージアムですが、親子で参加にすることが多い事実は、親子の触れ合う時間をつくることにもなりますので、それに加えて、先生がおっしゃった自由研究で写真を作る過程でワンショットを撮っていくという方もかなり多いと考えていますので、少しそれを意識しながら分かりやすいプリントを準備してみたいと思っております。

【議長】 ありがとうございます。本当にそのとおりだと思いますので、その形式で小学校の保護者の方やお子さんに使っていただくことがかなり大切だと思います。そのためぜひ先生達にも教材研究の一環で、博物館の資料や学芸員さんを使っていただければと思っていますので、よろしくお願ひします。

ほかにご意見はございますか。よろしいですか。

貴重な意見をたくさんいただけたと思います。ご意見の内容をよく吟味して、それを踏まえて来年度以降の博物館運営につなげていきたいと思っていますので、よろしくどうぞお願ひします。

それでは3件目の議事に入ります。北区飛鳥山博物館の在り方の検討について、事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、新たな運営ビジョンの策定についてご説明します。新たな運営ビジョンの策定に向けた検討について書かれた資料をご覧ください。

今の事業報告などを皆様にお話ししましたとおり、飛鳥山博物館では様々な活動を行っていて、各年度のものについてはご報告しているところです。当館で行う諸活動は、その時に定めている運営ビジョンに基づいて企画実施をしているものです。新たな運営ビジョンの策定に当たって、まずこれまでの運営ビジョンの概略についてご案内いたします。

1の北区飛鳥山博物館の運営ビジョンをご覧ください。

これまで私どもの博物館では、2回の運営ビジョンの策定を行ってまいりました。まず一つ目としては、①に挙げてあるものですが、平成17年に策定したものです。北区の飛鳥山博物館の在り方で、開館以来の利用実態を踏まえた運営ビジョンを策定しております。これは、いわゆる博物館の使命として挙げていますが、それは知のバザール、モノ・コト・ヒトの出会いの場の実現というところでございました。

これは博物館を知のバザール（市場）と位置づけて、モノ（資料）・コト（情報）・ヒ

ト（区民）を中心とする全ての利用者が出会い、交流する場となるよう、多種多様化するニーズに応え、生涯学習活動を強力にサポートして、活気に満ちた知的交流の場として、人々から望まれる博物館となることを目指したミッションです。

その活動方針としては、六つの「こうかん」の具現化に位置づけております。この「こうかん」というのは、下の a から f に挙げた六つのものですが、これは同音異義語になっていて、これをうまく使って活動方針を示したものでございます。

以下が、北区飛鳥山博物館の在り方の中で、掲載してあるものの抜粋になりますが、まず a としましては、心地よい環境を整え、モノ・コト・ヒトの出会いの場となります。b としましては、知識や体験をともに得て、共に分かち合います。c については、知識を媒介に発見・感動、楽しさ・喜びをともに分かち合います。d については、感性を広げ、地域の環境・風土と積極的に関わっていきます。e については、身近な生活や日常性のなかにある歴史・文化をともに考えます。f については、知識や情報を幅広く集め、知的満足が得られる場とします。

こういった a から f を活動方針と掲げて、運営をしていったわけですが、これが私達の博物館の活動の最大の特徴とも言っていると思うのですが、普及事業の多さにつながっていると思います。六つの「こうかん」の具現化の中で、これら普及事業の多さというのは、恐らく方向づけられてきたと思います。

こういった在り方の甲斐もありまして、最初のビジョンを作成した頃は、年間の入館者数が 7 万人ほど前後でありましたが、その後、年間の入館者数が伸びていきまして、平成 20 年の開館 10 周年を迎えた頃では、コロナ禍を除いて現在に至るまで、コンスタントに年間 10 万人を超えることになっていて、今年度はどこまで行くのかがこれからのお花見の状況にもよりますが、コンスタントに 10 万人を超えるお客様にご利用いただいている状況となっております。

なお、開館 15 周年を迎えたタイミングで、一度このビジョンの見直しを行ってありまして、それが②に挙げたものでございます。平成 26 年に策定したもので、このとき北区飛鳥山博物館のあるべき姿ということで策定をいたしました。これは①で挙げた北区飛鳥山博物館の在り方、これは策定した以後の社会状況を踏まえた、新たな博物館の運営ビジョンです。

例えば、社会状況としましては、区内の高齢化率の上昇、策定した頃では、23 区内でも 5 本の指に入る、3 本の指に入るぐらいの高齢化率が進んでいるということで、非常に

課題としていた時期でございました。そのため、高齢化率の上昇や利用者のニーズの変化など、いわゆるリピーターの方の利用目的の変化が、ちょうど生じ始めた時期でございました。

極端な話ですけれども、開館当初の頃のリピーターの方というのは、全ての講座にお申込みいただいて、ご参加いただいているというような状況でした。背景としては歴史の学び直し、戦中の歴史教育を受けた方が多くいらっしやって、自身の知識をアップデートしたいというようなことが、主な目的として博物館をご利用いただいているということがありました。ですが、それが新たな在り方を策定、運営ビジョンを策定するとき、開館15周年の頃になっていまして、講座の申込みの様子というのを拝見しておりますと、自身の興味がある講座を選んで集中的に参加しているというような様子がありました。ご参加いただいている方は、団塊の世代の方で、ある程度歴史の大枠を学んだ方が中心です。自身の興味関心があることを、より深めることを目的としてご参加いただいているということが多かったです。そういうふうに、利用目的、ニーズが少し変化しているということがありました。

また、東日本大震災も発生するということがあって、人と人とのつながり、絆を重視する、そういった社会の雰囲気が強かった時期でございます。そういったところを、踏まえまして、この②の中でのミッションとしては、人々が共感し合える博物館の実現を目指すというところで設定をいたしました。「共感」をキーワードにして知る喜びにあふれる、どんな人にも優しい、ぬくもりある博物館を目指したものです。

その活動方針としては、博物館活動を通じた知的感動と共感の分かち合いの具現化に位置づけてまいりました。

主な活動として、aからeに挙げていますが、まずaが共感の場としての博物館となります。bは、共感の場を生み出す博学連携を行う。cは、共感の広がる地域と博物館の関係を築く。dは、人と人が共感し合える博物館となる。eは、五感を通じた共感の実現をする。

aからeを達成できるような博物館活動の普及事業を中心に、進めてきたというところがございます。

今年度もこの運営ビジョンの延長上にありまして、様々な事業計画をしているところでございます。例えば対話型浮世絵鑑賞コーナーや北区ジュニア考古学クラブは、そのような運営ビジョンを強く意識した講座の一つでもあります。少しずつ、この新しいビジョンを持って

から、10年たっておりますので、効果というのも現れ始めているところではありますが、今回（2）のところに、新たな運営ビジョン策定に向けてというところでお示しをいたしました。現在、また社会状況が変わってきているというところがございます。本格的な少子高齢社会が到来している。またコロナ禍を経た社会の変容や職員で主に学芸員ですけれども、段階的な退職を迎えている時期にある。こういった課題に飛鳥山博物館自身も直面しているところがありますので、新たな運営ビジョン策定が必要だということで、今年度より検討を開始したところがございます。

今後のスケジュールとしましては、令和7年度にかけて、この新たな運営ビジョンも検討しまして、7年度末に策定をし、令和8年度から新たな運営ビジョンの基に、博物館活動を行っていったらというふうに考えているところがございます。

では、裏面をご覧ください。

現在博物館の内部で、検討グループを立ち上げまして、まず核となる運営ビジョン及び運営の柱となる部分を設定し、その後、学芸員会議は、博物館の学芸員10名全員及び管理運営係長が出席する会議がありますが、そこで議論を深めてきたものを、本日新たなビジョンの案として持ってまいりました。

では、（3）をご覧ください。

新たな運営ビジョン案としまして、今回の運営ビジョンでは、ミッションを「みんなの“My”博物館－地域の歴史文化を今と未来に活かす－」に設定いたしました。これは、博物館業務と文化財保護業務を行う、私ども博物館独自の運営ビジョンとして設定しているものです。

文化財保護業務は平成22年に組織改正で、それまで生涯学習推進課にあった文化財係と組織改正により統合したということがありまして、博物館の中では開館当時以来の博物館業務と文化財保護業務をともに行っております。なので、両方を視野に入れた運営ビジョンとして今回新たに設定をしたいと考えております。

地域の歴史文化を守り、今と未来に生かすための事業展開を行う。また、利用者個人との関わりを大切にし、一人一人が自分の博物館と思えるような親しみのある博物館を目指すところがございます。

特に2点目の、一人一人が自分の博物館と思われるようなという点ですが、最初に設定しました北区飛鳥山博物館の在り方の中で、唯一と言ってもいいかもしれません。達成できていなかった項目がございまして、それが友の会や自主学習グループの運営といった点

でございました。この点については、ほかの博物館さんで、例えば葛飾区の博物館などでの事例を参考に、参加者と共同での講座運営というような形で試みましたが、当館では様々な事業の運営の様子を見ておきますと、利用者の方の博物館のご利用いただいている状況を見てみると、友の会のような横のつながりや利用者同士のつながりを重視していらっしゃるというよりは、むしろ学芸員、博物館と個人とのつながりという点に魅力を感じて、ご利用いただいている方が多いのではないかというふうに感じております。そのため、今後は、この利用者個人とのつながりに重きを置いた運営をしていったらどうかと考えています。最近の言葉を使うと、利用者の方に博物館のファンとなっていただけて推していただく。推し活ではないですが、そのような形をしていただけるような体制づくりが整えていけたらいいのではないかというふうに考えております。

それを踏まえて、運営の柱は、②のところに示したように、「飛鳥山イズム」の継承と発展に設定をいたしました。この「飛鳥山イズム」は、開館以来培われてきた運営姿勢でして、時代を読み、新しいことに積極的に挑戦するチャレンジ精神や普及事業を重視した博物館活動という点です。この飛鳥山イズムの継承と発展を基に、博物館運営を行っていったらと考えています。

具体的には、下に表にも記しましたが、五つのジャンルに分けて現在検討をしているところがございます。一番下のところに表一覧を載せているものは、上に運営の柱と達成目標に分けて表記をいたしております。この達成目標については、ミッションが達成されたときの博物館があるべき姿と考えているものですので、達成目標の語尾には、全て「博物館」がつくと考えていただけましたら幸いです。

運営の柱としては五つで、「守る」「探る」「会う」「広がる」「憩う」にしております。そして、「守る」については、歴史を今と次世代につなげるということで、具体的な活動として、収集、保管、文化財の保護・活用を考えております。収集・保管の目標としては、地域のクラである博物館、文化財の保護活用としては、価値の再発見、文化資源の活用と継承する博物館と、今位置づけております。

「探る」、資料への多角的なアプローチで、調査研究に関しては、地域情報のシンクタンクである博物館です。

3点目は「会う」で、多様な人々の出会いと学びの場の提供については、四つございまして、まず一つ目が展示公開としては、今に生きる展示をする博物館。2つ目の教育普及については、ユニバーサルな事業展開をする博物館。3つ目の学校教育は、好奇心の育成、

感性の情勢をする博物館。最後の4つ目の連携については、ゆるやかなコミュニティの構築をする博物館。

4点目の「広がる」については、様々な場での活動と発信、広報活動、時代に即したネットワークづくりをしている博物館で考えております。

最後の「憩う」は、近年の区のロゴとも連動した動きとして、行けたらと思うのですが、公園と一体化した親しみ空間の創出ということで、観光、地域のブランディング力の向上に貢献する博物館というふうに考えております。

このような様々な達成目標を今回上げていますが、この達成目標には課題もございます。例えば収集保管のところに、地域のクラである博物館というところを挙げておりますが、現状としては修蔵庫の収蔵率が100%に近づきつつあるという状況がございます。今後は本日、皆さんからいただきます協議内容を踏まえまして、具体的な活動内容ですとか、課題の明確化などを進めていきたいというふうに考えております。

本日は、皆様に現段階までの、この運営ビジョンにつきまして、委員の皆様にご意見をいただきましたらというふうに考えております。

私からは以上でございます。

【議長】 ご説明をありがとうございます。イズムだったんですね。飛鳥山イムズという新しい言葉が出てきましたが、ただいまご説明がございました。このご説明に関しましては、ぜひ忌憚のないご意見をいただければというふうに存じます。よろしければ、挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。

私も、これを拝見したのは今が初めてなので、別に予習をしているわけでは全然ないので、なるほどと思いましたが、時系列にまとめていただいて、今までのこの博物館のある意味理念やミッションがどのような形で組み立てられて、変容してきているのかに関して展開してきたことが語られた上で、その延長線上に、新しい運営ビジョンを今ご提示いただいているということでございます。いかがでしょうか。どんなところでも結構です。

じゃあ、委員B、お願いいたします。

【委員B】 私も初見なので、意見はまとまっていないですが、一人ひとりはずごくいいと思います。今は例えば、与えられるものは、テレビでもそうですが、与えられるものを見るのではなくて、自ら選んで、一人ひとりが選ぶ時代が重要だと思います。さっきリス

キングなどのいろいろな言葉があり、もう一つはダイバーシティで、多様な人種や男女などの個人を重視するようなビジョンは非常に大事だと思います。北区は、外国人の方が非常に多くて、とても今、無視できるような状態ではないので、そういう方にもたくさん来ていただく。日本の文化を知っていただく。それをまた観光資源として世界に発信していただく。あの方たちは、SNSをすごく利用するので、写真を撮ってすぐ上げることをこれから先、多様性という言葉をもっと重視してやるべきだと、私は思っています。

【議長】 ありがとうございます。大切なご意見だと思いますが、何かその点について、少し意見を出していただくのがよろしいですね。

それではほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは委員Fをお願いいたします。

【委員F】

今後のことで、私も今日は博物館に来るときに少し早めに来て、飛鳥山博物館にどうやったら人が来るかなどで、何か集客のことだけ考えて、これほどのすてきな事業をされている飛鳥山博物館にどうすれば人が来るのかを考えて、早く来た後に喫茶店に入って、様子を見ました。

確かに高層マンションが建ち、飛鳥山で子どもたちを連れて30代の方も、この周りには来ます。そして、給食の無償化や子育てしやすい環境に今北区はなっています。その中で、飛鳥山まで来ますが、ここに入るためにどうすればいいのかなというふうに思っていました。

今日もたくさん入っていらっしゃって、年齢層もある程度固定されていて、食べるものも見ても、今すごく集客数を集めている金沢の21世紀美術館は、インバウンドも来て、SNSで多言語にすることも必要だと思いました。

要するに先ほどから出ている若い人たちや30代の方で独身の方は「映える」という言葉を使いますが、そのような安易なものではないと考えています。この事業は、確かに不易流行、不易なものですが、その流行を外国の方がたくさんインバウンドにたくさん来ているわけで、その辺りをまず外国の人ならば、コロナの前でキツネの行列になり、成田から真っすぐ大みそかに人が集まると言われます。確かに王子のキツネや、花見は昔からもう花見の場所なので桜に関してもそうです。それから銭湯の文化もここにはあるという形

も含めて、映えるスポットがないかと思いながら、予算的に全部変えなくてはいけないのではと考えていますが、大体その映えているところは、和スイーツであることが多いです。奇妙な話ですが、和スイーツなどの特色あるものがあって、そのエリアの中でもカフェ的な感じがあって、子どもたちも入れます。

今は教育力も上がっていて、このような体験や貝塚の体験をさせたいという気持ちが多くありますが、ただ人数が限定されています。

ここの博物館しかできないことがないとも思っていて、私は小さい頃から土器掘りに興味があり、組み合わせたときに、すごくうれしく思い、社会科の勉強は嫌いでしたが、そこで探求心というのは芽生えたと思います。

何か展示や作ることもそうですが、土の中に土器を入れておいて、組み合わせられて、その喜びもありましたが、飛鳥山の地にお子さんを連れてきた人たちも、この飛鳥山の地で博物館の中で遊べたことは、クオリティーが高い生活だと住民の方も思うと感じました。

そこで、インバウンドの話や子どもを入れるためにどうしたらいいかを考えていけばいいのではないかと思います。

【議長】 ありがとうございます。大変貴重なご意見をありがとうございます。

ほかには、なるべく多くのご意見をいただきたいので、よろしく願いいたします。

それでは委員Eに意見をお願いします。

【委員E】 ご提案をありがとうございます。

3番目の新たな運営ビジョン案ですが、飛鳥山博物館においては、紹介文に歴史、自然、文化とあり、また「大地・水・人」など自然に関する言葉も出てきますので、自然というキーワードはとても重要だと思っています。

自然がベースにあり、その上に様々な人の営みがあるということを考えると、このミッションの1つ目の、地域の歴史文化を守り、と言うところに、歴史、「自然」、文化、とぜひ入れていただければと思いました。

自然との関わりや共生、環境保全に関する様々なテーマの展示やイベントを企画する上で、自然は重要なキーワードになってきますし、当初17年のテーマには、地域の風土、地域の環境風土等と入っていますので、ぜひ入れていただければと思いました。

また、運営の柱については、整理されていてわかりやすかったです。達成目標の具体的な

記述については、私は他の博物館の運営委員も担当しているのですが、他の多くの博物館にも当てはまる内容だけではなく、飛鳥山博物館の独自の目標を加えても良いように感じました。

【議長】 ありがとうございます。大変重要な指摘だと思います。

独自性の問題と環境については、私も感じておりまして、例えば、SDGsなどでやはりESTという用語も入れていいだろうと。国連の目標も少し先延ばしになってはいますが、やはりそこに地域系の博物館がよりコミットメントしていくことは、全地球的なシェアとしては、やはり地域から考えていく意味で、博物館の重要な媒介を担っていくと思いますので、今、そのようなご意見だと思いますので、その方向でご検討をいただければと思います。

ほかにございますか。それでは委員Cにお願いいたします。

【委員C】 運営ビジョンは興味深く見せてもらいました。すごくいいと思います。

ちなみに言葉ですが五つあって、「守る」「探る」「会う」「広がる」「憩う」で、「広がる」という言葉に違和感があって、「守る」「探る」「会う」「憩う」は能動的で、「広がる」は、「広げる」ではないかなと思いますが、「広がる」とは自然に広がるということではなく、広げることに意思が広がると感じられないなど、私は思いました。

1つは広げるころの時代に即したネットワークづくりもいいと思いつつ、発信基地という場の意味合いの一つで、ここは基地として様々なものを発信していくという、いわば知の発信基地などいろいろ考えますが、そのような達成目標を入れてほしいと考えています。単にネットワークづくりだけでなく、少しそこを考えていただくと、より充実できると考えましたので、ご検討をお願いします。

【議長】 大変貴重な意見だと思います。ありがとうございます。

発信基地はいい発想ですね。ありがとうございます。

それでは次に委員Aにお願いいたします。

【委員A】 私は、北区史を考える会のまとめ役をしておりまして、先だって北区史を考える会のキャラクターを作ろうと考えていて、北区史を考える会の区史を引っ張ってきて、

クッシーか、くっちゃん、クッシー、怪獣のくっちゃん、その様な方向ではなくて、「くしみ」という名前をつけて、さらにそのキャラクターデザインの基は、髪の櫛を基にして、ちょっと尖がった、櫛という現物をお見せすると一番いいのですが、そのようなものを作りました。

結論から言うと、その方向性もいいのではないかと考えています。これを読んで飛鳥山博物館のゆるキャラなど、実際にはありますか。

【事務局】 ございます。

【委員 A】 もう 1 点ですが、25 周年は、先だって、私もお呼びいただきましたが、日本チェーンドラッグストア協会が 25 周年行事を開催されました。25 周年の売上げ規模は約 10 兆ということで、大規模です。実のところこの 25 年で、本当に消費構造は物すごく変わってしまいました。我々の国民の意思もそれに応じて変わっているのではないかと考えています。消費構造も社会構造も変わっていると思います。そして、彼らは随分伸びてきましたので、10 兆まで行ってしまった業界です。そのため、かなり自信を持って取り組んでいます。つまり裏側というのは、社会構造が随分変わったので、25 年前と今は、本当に違っている社会の中で我々は生きているということ、25 周年が物語っているので、それに踏まえながら展開をしていく必要があります。その変遷を今考えているので、お話を申し上げたところでございます。

先ほどのゆるキャラも、今後その枠組みの中に取り入れていただけたらうれしいと思っております。

最後に可能であれば、私はもう一つ北区中央図書館の区民の会の地域資料部会のまとめ役を 10 年間やっております、区民の会という博物館の会や友の会では、なかなかやり取りが大変な部分があることを 10 年来考えてずっとやっております。先ほどおっしゃられたように、個人と学芸員さんの間が博物館の中で成立するので、一人ひとりの感覚は、何か疎遠です。それが、友の会活動を一緒にやることは、なかなか難しいところでもあるなということは、何か私も図書館活動、区民の会の地域資料部会をやりながら感じるところでありますが、図書館の中での事業にかかわりながらやっているとと思っています。

その中で一点、毎年冬休み明けの最初の日曜日に、親子で探る、親子で探検、図書館のナイトツアーをやっています。割と集客力があるイベントで、地域資料部として格好の存

在である北区中央図書館の一部を使っている建物ですが、誰もいなくなった夜に、親子で数組が探検することで、そのガイダンスを私どもが見直させていただきます。ほとんどの方が喜んでいただけるということで、図書館は今までの事業はあったにしても、例えば図書館の内部を親子で見学をさせることや、事業展開の中で表に出すということもありますが、普段皆さんがあまりお見せできないものを利用し、イベント的に行ってみてはと考えております。収蔵されている、地域資料の重要なものについて、ご説明をされたり、お話をされたりすることによって、図書館や、博物館に対する認識がかなり変わってくるのではないかとこのことを申し添えておきます。

【議長】 ありがとうございます。大変貴重なご意見だったと思います。ありがとうございます。 それでは委員Dにお願いいたします。

【委員D】 ありがとうございます。

そうですね。先ほどご説明していただいたことと、各委員の皆様が議論されていることを聞きながら、私も全然考えがまとまっていない状態のまま少し話をさせていただくと。こちらのミッションの言葉としては、非常に私はいいと思いました。「今と未来に活かす」というフレーズですね。この観点は今までも裏側にはありましたが、少なくとも言葉上で明示されていなかった観点だと思いますので、これを今の時代に打ち出すということは、私は非常にいいと思いました。

さらに、そのポイントで、一人ひとりが自分の博物館と思える観点も、私はこれを非常にいいと思いました。そういう意味ならば、自分の関わりがあるならば、先ほどファンという表現をされましたけれども、個人的にはファンではなく、まさに自分自身の関わりのある、観点になるのかなとお聞きしていいと思います。

では、その一人ひとりが何かということだと思いますと、実は私には子どもが二人おりまして、北区内の小学校と保育園に通っている彼や彼女たちのお友達のクラスの状況を見ますと、私の世代と全然違って、先ほども長濱委員がおっしゃったように、外国のお子さんが普通にいてクラスに、外国にルーツを持つ友達がたくさんいるということが、当たり前の光景になっています。そういった外国にルーツを持つ子どもやその家族も含めて、自分自身の博物館になったらいいなと切実に思います。そのため、今までやはり「日本人が」という前提で、私も考えてしまいましたが、子どもたちの状況を考えると、その一人ひとり

の中に、ぜひユニバーサルな事業展開という外国人を含めた方が自分自身の博物館と思えるような形の姿になっていけたらいいとお聞きしていて思いました。

【議長】 ありがとうございます。大変重要なご意見だと思います。

ほかには何かございますでしょうか。あるいは事務局のほうから、何か今の意見を踏まえてございますか。

【事務局】 貴重なご意見をありがとうございました。確かに今のご発言をいただいたところで、地域の歴史文化に自然をやはり加える。この北区の飛鳥山博物館のもともとの原点のところ、北区の自然、文化、歴史というふうな形でありましたので、それはぜひとも入れて、北区の自然、環境を視野に入れながら、少し考えてみたいと思います。

それから、ご指摘のとおり「広がる」、これは「広げる」ではないか。まさに発信という言葉がございますので、そういった方向だと考えております。

またその知の発信基地という新たな言葉も頂戴いたしましたので、こちらも検討させていただきたいと思います。

また、ダイバーシティ、インバウンド、SDGs、ユニバーサルというキーワードをもう一度我々のほうで、どこで展開できるかを確認しながら、次の具体的な形に少しつなげていけるかなと思っております。

【議長】 ありがとうございます。

それでは、本日は多様な意見を、それぞれの立場やお考えからいただけたと思います。大変いい議論ができたなと思っています。

先ほどの説明にも令和7年度末に策定をするということがございますので、来期も検討を継続していくこととなりますので、協議内容につきましては、まとめて次期の協議会に申し送り事項にしたいと思いますがよろしいでしょうか。そのような形にさせていただきたいと思います。

ほかに議事全般について、ご意見等々はございますか。よろしいでしょうか。何か言いたいことがあれば、大丈夫ですか。

ありがとうございます。無ければ本日の協議会の議事については、これで終了といたします。

では、司会のほうに進行をお返しいたします。よろしくお願いいたします。

【事務局】 ありがとうございます。令和5年度の事業の中間報告のご審議並びに来年度の事業計画で、また当館の在り方の検討につきましては貴重なご意見を賜りまして、大変ありがとうございました。

閉会に当たりまして、飛鳥山博物館長よりご挨拶申し上げます。

【館長】 飛鳥山博物館長の坪井でございます。

本日は、委員の皆様には年度末の大変お忙しい中でおいでいただきまして、本当にありがとうございます。貴重なご意見、ご提言をしっかりと受け止めさせていただきます。

今年の3月で、飛鳥山博物館も26周年を迎えることができました。今、ちょうど博物館行政も節目を迎えていると思っています。今日いただいた新たなビジョン、運営ビジョン策定に向けてのご意見も含めまして、本日いただきましたご意見やご提言を私たち職員でしっかりと受け止めさせていただきます。これからの博物館行政、企画展、講座等の事業運営に生かしていきたいと思っております。

本日は、本当にありがとうございました。

【事務局】 以上をもちまして、令和4年度と5年度の2年間にわたります今期の運営協議会を終了させていただきます。委員の皆様には、様々なご協議をいただきまして、大変ありがとうございました。